

第2章 都市の将来像

2—1 都市の将来像

都市の将来像と基本方針

人口減少社会においても持続的な発展を続けるまちとするため、都市づくりの目標を「基本方針」として、以下の「都市の将来像」の実現を目指します。

◆将来の想定人口

基準年次：2015年
465,699人

目標年次：2035年
462,000人

※2015年は国勢調査による

◆都市の将来像

市民とともに つくりあげる
持続的に成長する成熟都市

◆基本方針

市民が主役の持続可能なまちづくり

金沢らしい資産を守り・磨き上げ・活かすことで、成長・発展していく
交流拠点都市の形成

中心市街地を核とした都市機能の集積と
公共交通重要路線沿線へ居住が誘導された
集約都市（軸線強化型都市構造）の形成

都市と良好な農林業・自然環境との共生によって、
市民誰もが安全で快適に暮らし働ける
環境共生都市の形成

(都市の将来像)

市民とともに つくりあげる 持続的に成長する成熟都市

(基本方針)

市民が主役の持続可能なまちづくり

金沢らしい資産を守り・磨き上げ・活かすことで、成長・発展していく

交流拠点都市の形成

- ❖ 藩政期から培われてきた歴史や伝統、学術、文化などの資産を守り、磨き高めるとともに、その資産を活かした新たな価値を創造し続けることで、持続的に成長・発展する交流拠点都市の形成を目指します。

中心市街地を核とした都市機能の集積と
公共交通重要路線沿線へ居住が誘導された

集約都市(軸線強化型都市構造)の形成

- ❖ 市街地の拡大は原則として行わないものとし、中心市街地を核として、居住や商業・業務などの都市機能を集積するとともに、都心軸などの公共交通重要路線を軸として、その沿線や地域・生活拠点に居住や各種施設を誘導することで、集約都市(軸線強化型都市構造)の形成を目指します。

都市と良好な農林業・自然環境との共生によって、
市民誰もが安全で快適に暮らし働ける

環境共生都市の形成

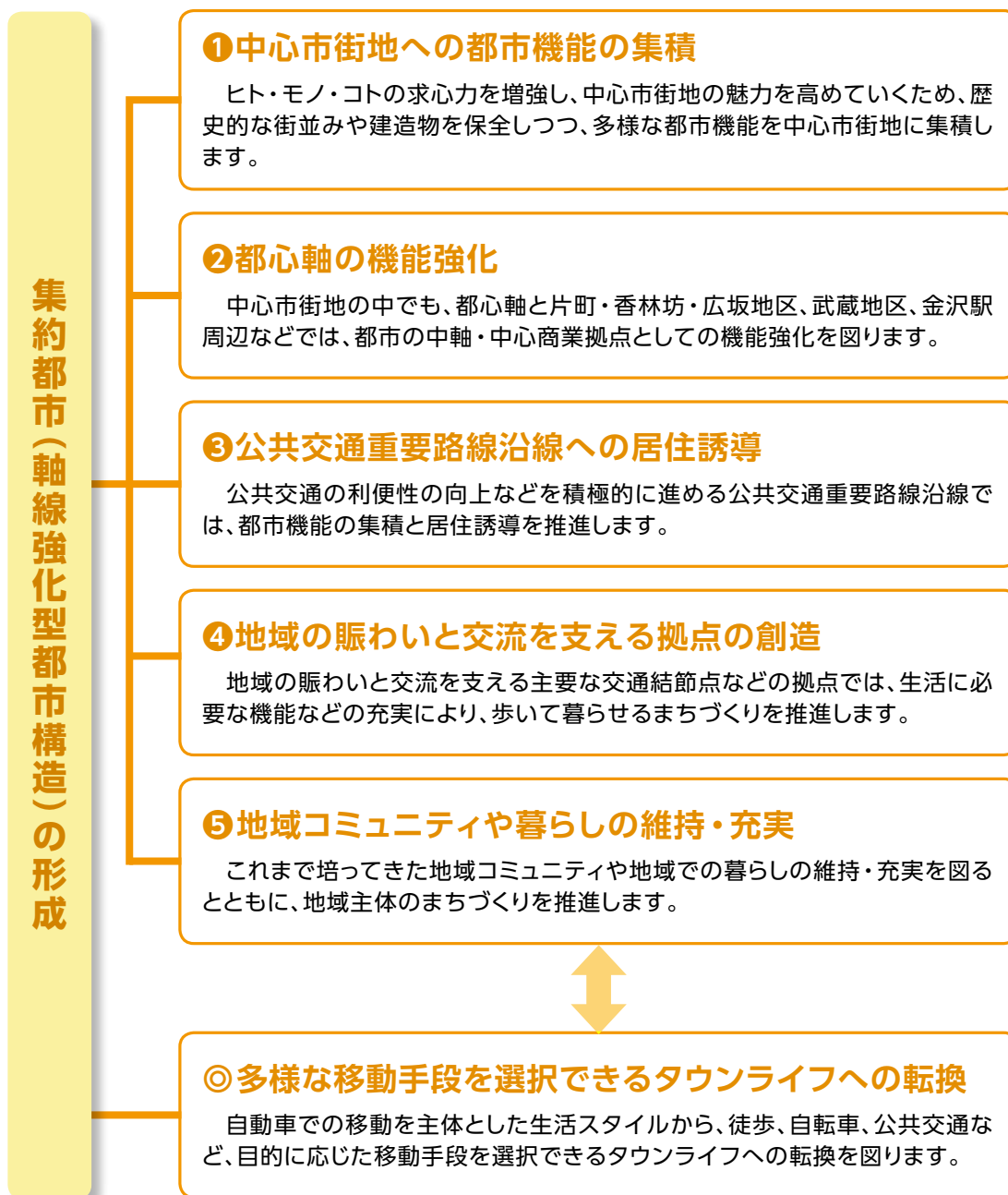
- ❖ 市街地を取り巻く田園地域・中山間地域では、潤いある自然環境の保全や農林業の持続的な振興とともに、地域交流拠点の形成を促すことなどにより、集落機能の維持を図ります。
- ❖ 土砂災害対策の強化などにより、国土の保全を図ることで、全ての市民が安全・安心に暮らせる環境共生都市の形成を目指します。

※「市街地」は市街化区域を表しています。

集約都市（軸線強化型都市構造）の形成の方針

「集約都市（軸線強化型都市構造）の形成」の実現に向け、次に示す5つの方針に基づく都市構造の変革を図ります。

併せて、自動車（マイカー）での移動を主体とした現在の生活スタイルから、徒歩や自転車、公共交通などの多様な移動手段を目的に応じて選択できるタウンライフへの転換を図ります。

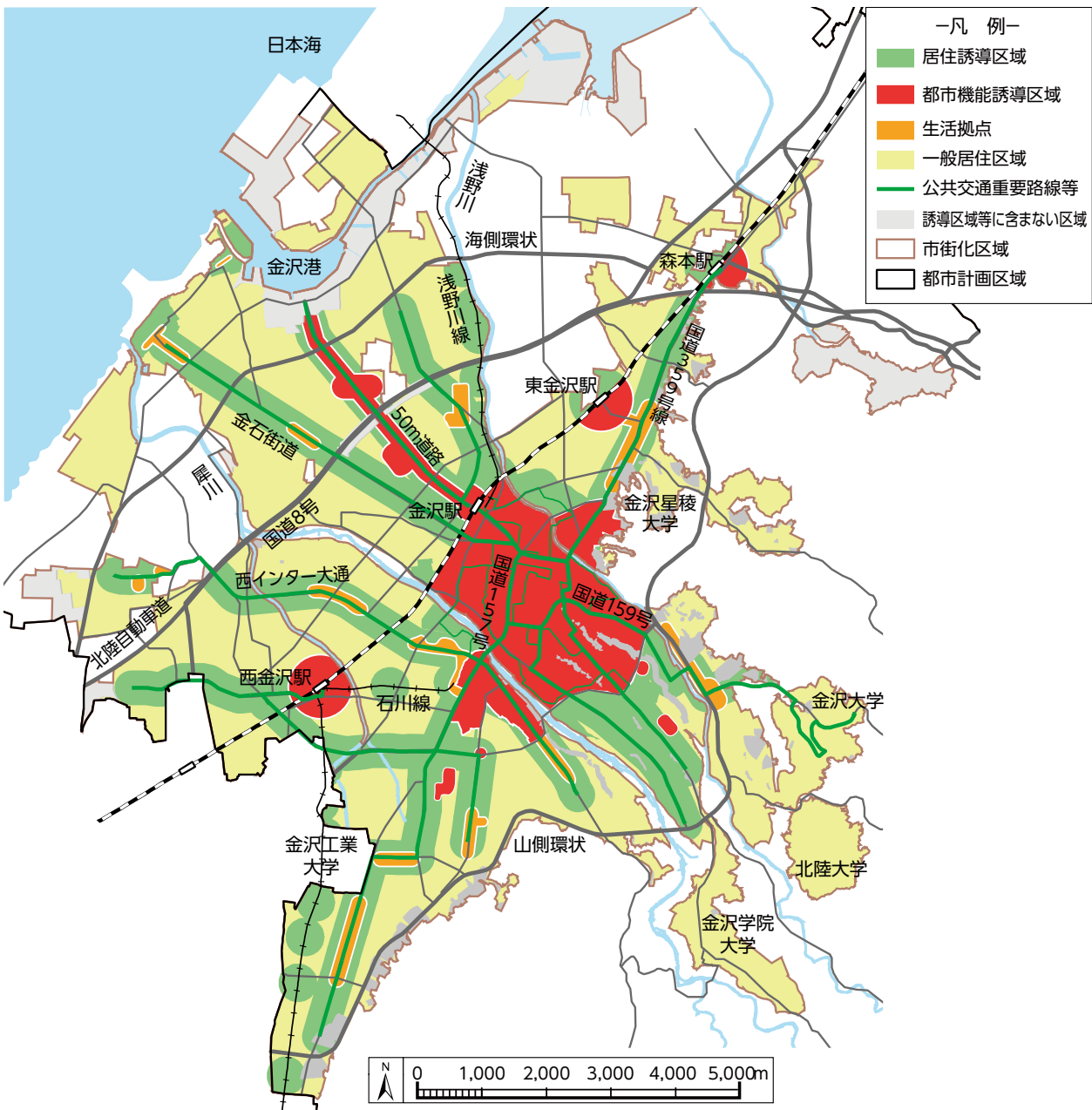


※「軸線強化型都市構造」とはまちなかを「核」として、居住（住む場所）や商業・業務などの都市機能を集積するとともに、第2次金沢交通戦略で位置づける「公共交通重要路線」を「軸」として、その沿線に居住や各種施設を中長期的に緩やかに誘導し、まちの活力を強化していくための都市の姿のことです。

◆居住や都市機能の誘導に関する区域と位置づけ

区域	位置づけ
居住誘導区域	・日常生活に必要なサービス機能や一定水準の公共交通サービスを確保し、将来にわたり本市の居住の柱として、人口密度を維持する区域
都市機能誘導区域	・様々な都市機能(商業、業務、居住、医療、福祉、教育、歴史・文化、観光など)を集積し、都市生活の利便性を確保することで賑わいを高める区域
都心拠点	・歴史・文化などの多様な魅力が集積する金沢の顔として、様々な都市機能を誘導する拠点
地域拠点	・主要な交通結節点として様々な交流と賑わいを創出する拠点
特定機能地区	・子育て、教育、医療、福祉、健康、スポーツなどの都市機能を新たに集積する地区
生活拠点	・日常生活圏(中学校区程度)において、既存の商店街などの地域生活を支える拠点
一般居住区域	・自動車や自転車での移動を主体として、日常生活に必要な施設を維持しながらこれまで通りに暮らし続けられる区域

◆誘導区域などの設定図



◆集約都市(軸線強化型都市構造)の形成に向けた各区域での主な取組

◎居住誘導区域

- ・公共交通重要路線など沿線における居住の推進
- ・子育て・健康・福祉拠点の整備・充実
- ・サービス付き高齢者向け住宅の立地誘導
- ・バス路線の段階的再編
- ・地域商店街の出店への支援、大型商業施設の適正配置
- ・公共交通重要路線の利便性向上
- ・歩けるまちづくりの推進、自転車利用環境の向上 など

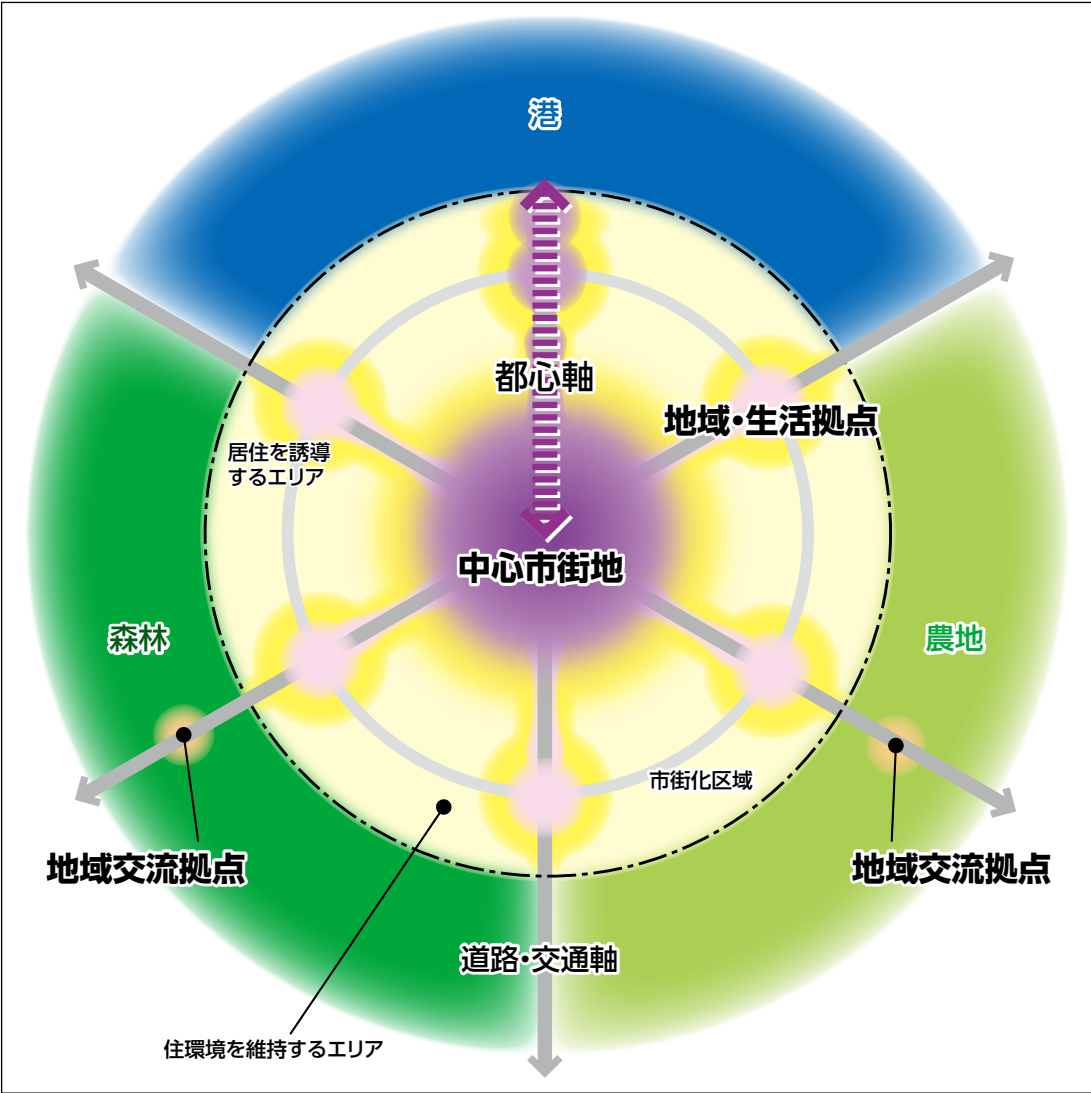
◎都市機能誘導区域・生活拠点

- ・誘導施設などの整備への支援
- ・市街地再開発事業などによる拠点づくり
- ・子育て・健康・福祉拠点の整備・充実
- ・コンベンション機能の強化、文化施設の整備・充実
- ・新しい交通システムの導入検討、バス路線の段階的再編
- ・交通結節点の整備・機能強化
- ・まちなか居住の推進
- ・金澤町家などの歴史的建築物の保全・活用の推進
- ・中心市街地の都市機能向上 など

◎一般居住区域

- ・健康・福祉拠点の整備・充実
- ・バス路線の段階的再編(郊外バスネットワークの改善)
- ・居住の維持
- ・地域商店街の出店への支援、大型商業施設の適正配置
- ・地域住民主体の移動手段の確保に対する支援
- ・緑地や農地の保全と有効活用 など

将来の都市のイメージ



※「地域・生活拠点」とは、「集約都市（軸線強化型都市構造）の形成」の方針で示した地域拠点や生活拠点など市街地において、様々な交流や賑わいを創出する主要な交通結節点周辺や既存の商店街など地域生活を支える拠点を指すものです。

※「地域交流拠点」とは、市街地以外において、地域資源や既存施設の活用などによる集落機能の維持を図る拠点を指すものです。（第5章参照）

※本計画で用いる「市街地」は市街化区域を表しています。

2—2 都市の構成

都市の将来像の実現に向け、都市づくりの骨格をなす都市の構成について、大きく「土地利用構成」、「道路・交通軸」、「都市機能拠点」の区分により設定します。

A. 土地利用構成

基本的な土地利用の構成として、「都心軸・中心市街地」、「市街地」、「農業環境」、「自然環境」の各ゾーンを設定します。

都心軸・中心市街地ゾーン

主に都市機能誘導区域の都心拠点を都心軸・中心市街地ゾーンとして位置づけます。

都市全体の核となる都心軸・中心市街地ゾーンは、藩政期からの都市構造を受け継いできた金沢を象徴するゾーンであり、歴史・伝統・文化や都市を取り巻く豊かな自然環境と創造的な近代的・都市環境の調和に配慮したまちづくりを進めてきました。

中心市街地の魅力をさらに高めていくため、歴史文化資産の保全・活用・継承に努めるとともに、集約都市形成に向けた取組を進めていきます。

また、片町、香林坊から武蔵、金沢駅を經由して金沢港に至る都心軸沿線においては、世界の交流拠点都市の実現のため、商業、業務機能や各種交通施設などを積極的に誘導することで、都市機能の充実・強化を推進し、金沢の顔となる都市の中軸として品格のある良好な景観形成や賑わいの創出を図ります。

市街地ゾーン

市街地のうち、工業専用地域など住宅の立地を制限する地区を除く区域を市街地ゾーンとして位置づけ、集約都市（軸線強化型都市構造）の形成を図ります。

（居住誘導区域）

公共交通重要路線などの利便性の確保や歴史文化資産の保全・活用に努めるとともに、日常生活に必要なサービス機能と居住の誘導を推進します。



(一般居住区域)

原則として市街地の拡大を行わないものとし、用途に応じた適正な土地利用を誘導するとともに日常生活に必要な施設を維持しながら、市民誰もが安全・安心に暮らせる良好な市街地を維持します。

農業環境ゾーン

主として、JR北陸本線以西の平野部の市街化調整区域を農業環境ゾーンとして位置づけます。

農地を保全し農業の振興を図るとともに、住み慣れた集落での暮らしや地域住民が互いに支え合い培ってきた生活を維持していくため、良好な集落などの生活環境づくりを進めます。



自然環境ゾーン

主として、JR北陸本線以东の市街化調整区域や都市計画区域外を自然環境ゾーンとして位置づけます。

良好な自然環境は都市骨格を構成する貴重な財産であり、良好な景観形成の要素として保全していきます。また、農地や森林を守っていくためにも農林業の活性化とゾーンに点在する集落機能の維持に努めます。

B. 道路・交通軸

都市活動を支える骨格的な交通機能である道路・交通軸を「広域交通ネットワーク」、「都市内交通ネットワーク」に区分して設定します。

広域交通ネットワーク

主として遠方及び隣接する都市間との連絡機能を担う以下の道路・交通軸を広域交通ネットワークとして位置づけます。

(道路)

北陸自動車道、のと里山海道、国道8号をはじめとする国・県道の機能充実、東海北陸自動車道との連絡など、各方面への広域道路ネットワークの強化を図ります。

(鉄道)

北陸新幹線、JR北陸本線、IRいしかわ鉄道線については、北陸新幹線の延伸や鉄道間の連携強化による交通利便性の向上に努めます。北陸新幹線の延伸に伴い、IRいしかわ鉄道に移管する並行在来線については、サービス水準の向上に向けた検討を進めます。

(航路)

金沢港は、海の玄関口にふさわしいクルーズ船と国際貨物船に対応した拠点機能の向上を図ります。

(空路)

二次交通手段の拡充など、世界の都市との玄関口となる県内各空港との連携強化を図ります。



都市内交通ネットワーク

(幹線交通機能)

都市内の連絡機能を担う3つの環状道路及び放射道路、公共交通重要路線を基幹とするバス路線と鉄道線(北陸鉄道など)を都市内交通ネットワークとして位置づけ、選択と集中による必要な道路の整備を推進するとともに、バスや鉄道などの公共交通ネットワークの強化を図ります。

(生活交通機能)

安全・安心な交通環境の確保に努めるとともに、自転車や地域特性に応じた生活交通などの多様な移動手段を確保した交通体系を構築していきます。



C. 都市機能拠点

金沢市における主要な都市機能拠点として、「都心軸上拠点」、「地域拠点」、「生活拠点」、「産業拠点」、「歴史・文化拠点」、「レクリエーション拠点」、「学術拠点」を設定します。

都心軸上拠点

片町・香林坊・広坂地区、武蔵地区、金沢駅周辺、石川県庁周辺、金沢港周辺を都心軸上拠点として位置づけます。

片町・香林坊・広坂地区、武蔵地区は、世界の交流拠点都市としてふさわしい集客力を備えた商業機能などの充実、美しく歩いて楽しめる都市空間の形成を図ります。

また、金沢駅周辺は、商業・業務機能のほか教育機能などの都市機能を備えた金沢の玄関口として、適正な土地利用を誘導するとともに、石川県庁周辺は、駅西新都心の核として都市機能の集積、賑わいの創出を図ります。

金沢港周辺は、海の玄関口となる交流拠点としての機能強化により、賑わい創出を図ります。



地域拠点

森本駅、東金沢駅、西金沢駅周辺を地域拠点として位置づけます。

公共交通の結節点として、さらなる交通結節機能の向上を図るとともに、適正な土地利用の誘導のもと、商業・業務機能や教育機能など、様々な交流と賑わいを創出する都市機能を誘導します。

生活拠点

既存商店街などの地域生活を支える地区を生活拠点として位置づけ、市民が日常的に必要な買い物ができる商業機能を維持することで、良好な住環境の維持や生活利便性の確保を推進します。



第2章 都市の将来像

産業拠点

金沢港周辺、専光寺地区、安原異業種工業団地、いなほ工業団地、かたつ工業団地、金沢森本インター工業団地及び金沢テクノパークのほか、北陸自動車道金沢東、西インターチェンジ周辺、金沢市中央卸売市場、問屋団地を産業拠点として位置づけます。

金沢港周辺は、海の玄関口となる物流機能の拠点としての整備を推進するとともに、工業団地においては、各地区の特性に応じた産業を育成し、集積を高めることで、産業構造の高度化・多様化を図ります。

また、インターチェンジ周辺や金沢市中央卸売市場、問屋団地では、広域交通ネットワーク機能などを活かし、流通機能の拠点としての強化を図ります。



歴史・文化拠点

金沢城公園、兼六園、寺院群、茶屋街、金澤町家など伝統的な建造物が集積した歴史的街並みに加え、昔からの道路形態や用水、惣構などの歴史文化資産を歴史・文化拠点として位置づけ、金沢市を象徴する空間として積極的な保全・活用を進めていきます。

レクリエーション拠点

市民をはじめ広域的な利用者の憩いの場となる公園緑地をレクリエーション拠点として位置づけ、市民の利便性を第一とし、金沢の歴史・文化や各公園の特性を活かした施設の整備と機能の充実を図ります。

学術拠点

金沢大学や金沢美術工芸大学など多くの大学、研究機関を学術拠点として位置づけ、市民、大学、行政の連携を深めるとともに、大学などのサテライト施設を都市機能としてまちなかに誘導することにより、さらに質の高いまちづくりの展開を目指します。



◆ 将来の都市構成図

